

第5章 権現山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

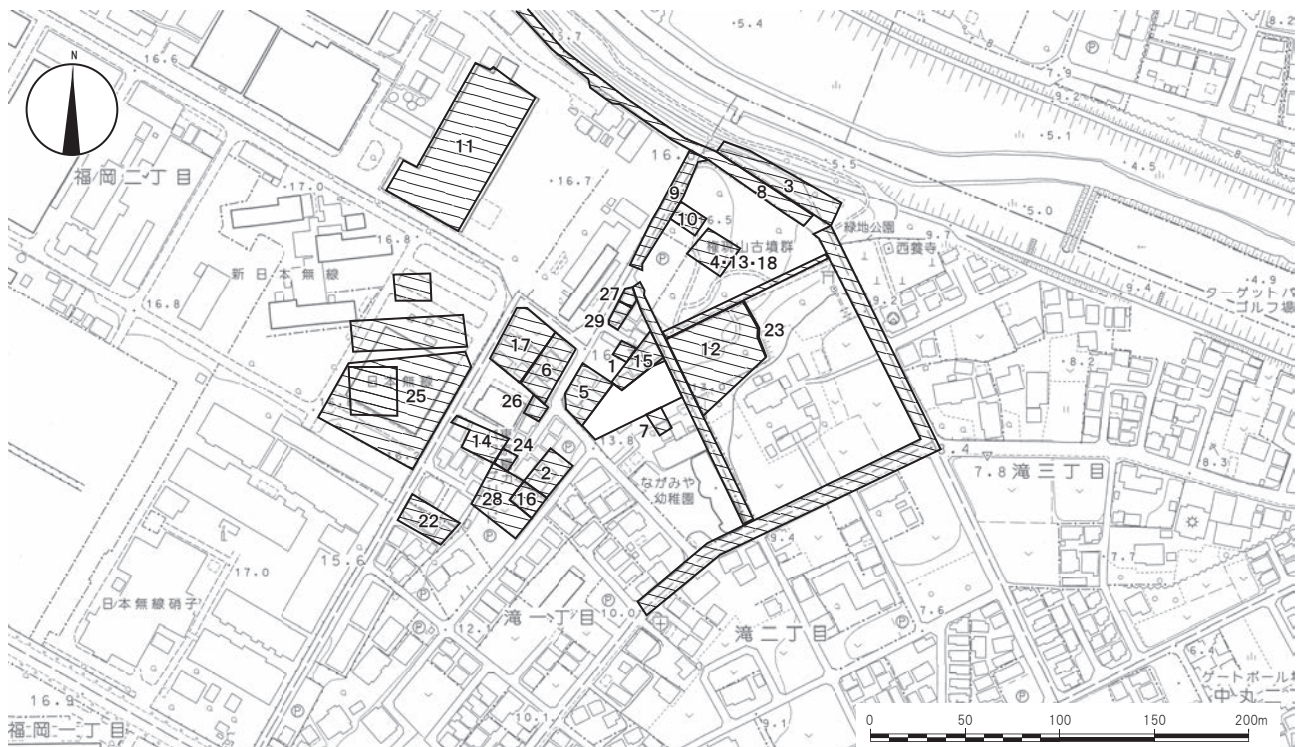
周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山といふ円形古墳」(安部1917)として紹介された。その後、1937年(昭和12年)に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。(山内1937)戦後は『埼玉縣史』(1951)、『古墳調査報告書－入間地区－』(1961)等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」(権現山北古墳群2M・3M)の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」(権現山古墳群2M)は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財(上福岡市)に指定された。資料上の初見は元禄12(1699)年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現 社地」の記載があり、塚の上には天保11(1840)年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群(11基)が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

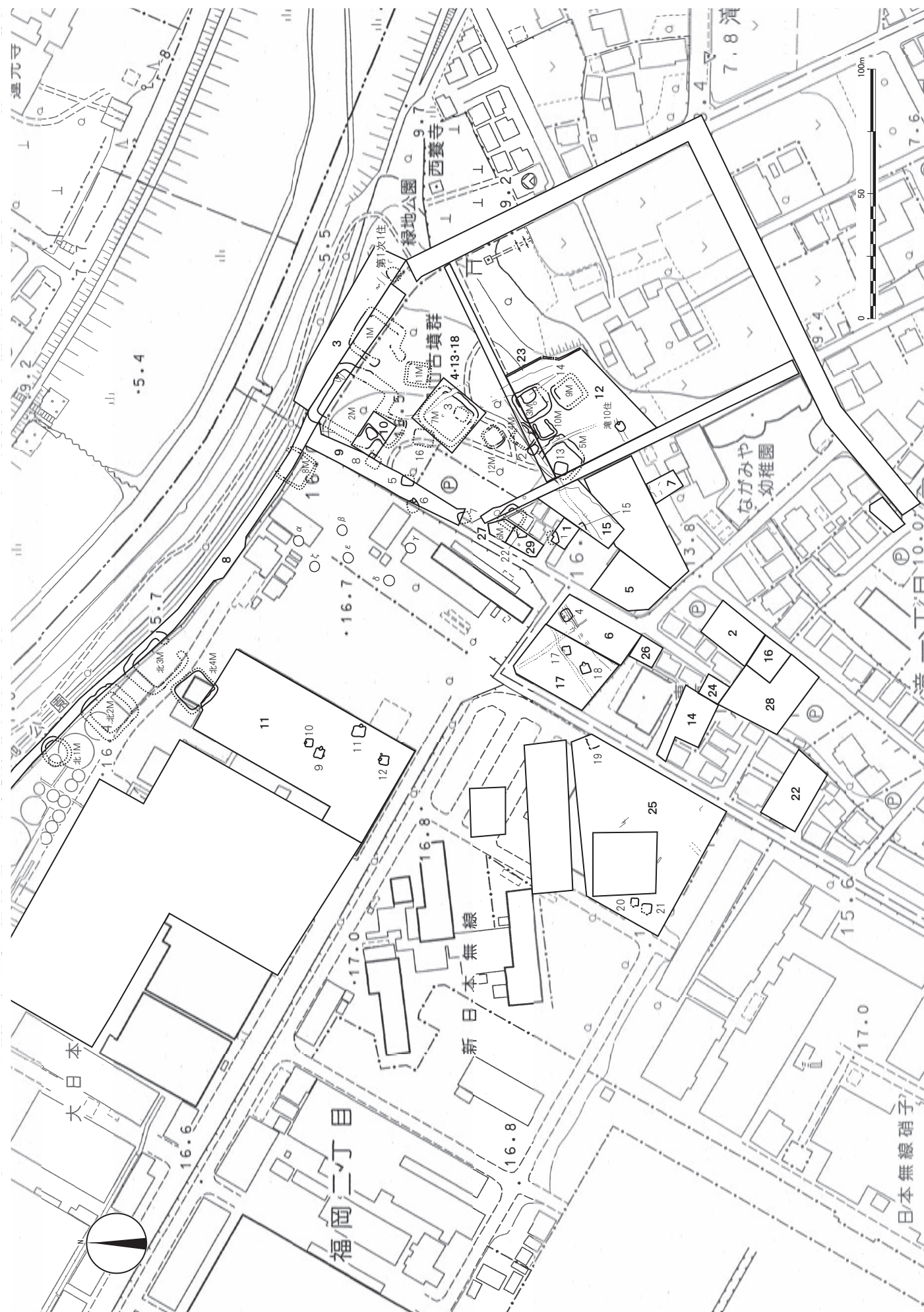
1982年以来2021年4月現在29ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡第1・2・5～7・14・17地点へ変更した。



第18図 権現山遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第 17 表 権現山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	滝 1-4-15	1980.6.27 ~ 7.3	76		個人住宅	古墳時代住居跡 1、甕	旧滝遺跡 3 次	上埋Ⅲ
2	滝 1-3-21	1980.7.25 ~ 29	330		住宅建設	遺構遺物なし	旧滝遺跡 5 次	上埋Ⅲ
3	滝 3-4-7	1982.1.20 ~ 2.6	50		自転車置場 (公共事業)	方形周溝墓、縄文時代住居跡 1、縄文土器 等		S56 上社
4	滝 1-5-4	1982.12.8 ~ 28	200		範囲確認	方形周溝墓 6、古墳時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器 等		上埋Ⅴ、市史資Ⅰ
		1983.5.18 ~ 6.28	100			方形周溝墓 1、古墳時代住居跡 1、縄文土器 等	旧 83-2 次	上埋Ⅵ
5	滝 1-4-4	1984.5.11 ~ 22	466		住宅建設	溝、土師器	旧滝遺跡 9 次	上埋Ⅶ、市史資Ⅰ
6	滝 1-3-17	1984.6.1 ~ 12	363		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土坑、ビット、溝、土師器 等	旧滝遺跡 10 次	上埋Ⅶ、市史資Ⅰ
7	滝 1-4-2	1984.6.28 ~ 30	33		物置	集石、土坑、ビット、陶磁器 等	旧滝遺跡 11 次	上埋Ⅶ、市史資Ⅰ
8	大字福岡 1500	1985.1.20 ~ 2.25			道路築造	方形周溝墓 2、古墳 3、壺形土器 等		S59 上社、市史資Ⅰ
9	滝 1-4-8	1985.8.9 ~ 9.9	430		範囲確認	古墳時代住居跡 2、古代住居跡 1、土坑、土師器、土製紡錘車 等	旧 85-4 次	上埋Ⅷ
10	滝 1-5-9・10	1986.2.10 ~ 22	202		範囲確認	方形周溝墓 1、古墳時代住居跡 1、土坑、ビット、土師器 等	旧 85-5 次	上埋Ⅷ
11	福岡 3-1187-4	1988.6.7 ~ 14	3,200		工場増築	古墳 1、古代住居跡 4		
12	滝 1-6-6	1989.2.20 ~ 3.6	2,000		農地改善	方形周溝墓 4、古墳時代住居跡 3、溝		上埋 11、市史資Ⅰ
	滝 1-6-1	1989.5.8 ~	1,724		農地改善	方形周溝墓 4、古代住居跡 1		H1 上社
13	滝 1-5-4	1993.7 ~ 8			範囲確認	古墳 2、高坏 等		市史資Ⅰ
14	滝 1-3-13	1995.11.27 ~ 30	462		共同住宅	遺構遺物なし	旧滝遺跡 95-1	上埋 18
15	滝 1-4-3	1996.4.15 ~ 5.7	396		個人住宅	古墳時代住居跡 1、溝、土師器	旧 96-9 次	上埋 19
16	滝 1-3-49	2002.5.29 ~ 30	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等	旧滝遺跡 02-1	上埋 25
17	滝 2-6-2	2004.5.17 ~ 27	856		範囲確認	古代住居跡 2、土師器 等		上埋 27
18	滝 1-5-4	2006.4.25 ~ 27			古墳整備			
19	字福岡 2-1500-23 (工場内)				工場増築		立会のみ	
20								
21								
22								
23	滝 1-6-7	(2008.10.23 ~ 29)	1,576	(12)	古墳整備	土坑、集石、須恵器 等		市内 6
24	滝 1-3-25	(2013.5.17)	90	(5.7)	個人住宅	遺構なし、土師器 等		市内 18
25	福岡 2-1-1	(2014.6.2 ~ 7.18) 2014.7.22 ~ 9.2	3,588	(996.75) 86	事務所	古代住居跡 3、炉穴、土坑、溝、土師器 等		市内 16
26	滝 1-3-23	(2015.11.30)	97	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
27	滝 1-4-6	(2017.7.3・4)	63	(25)	分譲住宅	ビット、縄文土器 等		市内 24
28	滝 1-3-3	(2019.2.25・26)	624	(131.99)	分譲住宅	ビット、縄文土器 等		市内 25
29	滝 1-4-11・17	(2020.4.14 ~ 17)	98	(26.4)	分譲住宅	古代住居跡 1、土師器 等		市内 26



第19図 権現山遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第18表 権現山遺跡古代住居跡一覧表

住居 番号	調査 年度	地点名	調査名	調査 率	平面形 (推定)	規模	炉 K (竈)	設 置 壁	竈 規模 (cm)	周 溝	主軸方位	時期	備考	所収 報告書
	1937		1937年調査α住居									古墳前期	遺構確認のみ 1937年山内清男先生 調査	市史資Ⅰ
	1937		1937年調査β住居									古墳前期		市史資Ⅰ
	1937		1937年調査γ住居									古墳前期		市史資Ⅰ
	1937		1937年調査δ住居									古墳前期		市史資Ⅰ
	1937		1937年調査ε住居									古墳前期		市史資Ⅰ
	1937		1937年調査ζ住居									古墳前期		市史資Ⅰ
1	1980	第1地点	旧滝第3次調査5号住居	1/2	隅丸方形	(360×260)×30		未掘		○	(N-11-W)	4C前半		上埋Ⅲ・ 市史資Ⅰ
2	1982	第4地点	第1次調査2号住居	完掘	隅丸長方形	400×320×20		未掘			N-60-W	4C前半	焼失住居	上埋Ⅴ・ 市史資Ⅰ
3	1983	第4地点	第2次調査3号住居	1/4	(隅丸長方形)	(560×470)×30	炉	中央 北寄り		○	N-30-E	古墳前期	床面硬化	上埋Ⅵ・ 市史資Ⅰ
4	1984	第6地点	旧滝第10次調査11号 住居	完掘	隅丸方形	445×(380)×35	K	北		○	N-5-W	6C前半	北西部に方形貯蔵穴 55×40×44	上埋Ⅶ・ 市史資Ⅰ
5	1985	第9地点	第4次調査4号住居	1/4	(隅丸長方形)	(425×175)×20		未掘		○	(N-5-E)	4C前半	南西部に方形貯蔵穴 60×20×20	上埋Ⅷ・ 市史資Ⅰ
6	1985	第9地点	第4次調査5号住居	1/4	不明	(260×150)×45	K	北東隅		○	(N-57-E)	9C	覆土より鉄滓出土、 小鍛冶関連住居か、 床面硬化	上埋Ⅷ・ 市史資Ⅰ
7	1985	第9地点	第4次調査6号住居	一部	不明	不明		未掘			不明		床面のみ確認	上埋Ⅷ
8	1986	第10地点	第5次調査7号住居	(1/4)	不明	(225×215)		未掘		○	不明	4C前半	東部に長方形貯蔵穴 55×35	上埋Ⅷ
9	1988	第11地点	1988年調査1号住居	完掘	正方形	290×290×25	K	北		○	N-1-E	8C前半	床面に多量の炭化 材、焼失住居	上埋11
10	1988	第11地点	1988年調査2号住居	完掘	方形	340×320×30	K	東		○	S-74-E	8C前半		上埋11
11	1988	第11地点	1988年調査3号住居	完掘	長方形	370×450×20	K	東		○	N-2-E	8C前半	床面に多量の炭化 材、焼失住居	上埋11
12	1988	第11地点	1988年調査4号住居	完掘	方形	310×320×30	K	北		○	N-6-E	8C前半		上埋11
13	1989	第12地点	1989年調査12号住居	完掘	(隅丸長方形)	550×(460)×40	炉	中央 北寄り		○	N-10-E	古墳前期	4本主柱穴	市史資Ⅰ
14	1989	第12地点	1989年調査13号住居	完掘	(隅丸長方形)	(648)×480	炉	中央 北寄り			N-37-W	古墳前期		市史資Ⅰ
15	1996	第15地点	第9次調査9号住居	1/5	(隅丸方形)	不明				○	不明	古墳前期	焼失住居か、床面 硬化	上埋19
16	1999		1999年調査15号住居									古墳前期	詳細不明	未報告
17	2004	第17地点	2004年調査16号住居	完掘	方形	350×360×50	K	東		○	N-79-E	8C前半	床面硬化	上埋27
18	2004	第17地点	2004年調査17号住居	完掘	方形	320×290×(10)	K	北		○	N-13-W	8C前半	床面硬化	上埋27
19	2014	第25地点	H18号住居	一部	不明	不明		未掘		○	不明			
20	2014	第25地点	H19号住居	完掘	方形	283×280×35	K	西		○	N-78-W		床面硬化	市内16
21	2014	第25地点	H20号住居	完掘	隅丸方形	370×385×35	K	西		○	N-76-W		床面硬化	
22	2020	第29地点	2020年調査22号住居	一部	(隅丸長方形)	(360)×342								市内26

II 権現山遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅に伴うもので、原因者より2020年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年4月14～17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。

調査の結果、古代住居跡1軒と土坑1基を検出したが、保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① H22号住居跡

H22号住居跡は調査区の東側で検出した。調査区外に広がるため、遺構全体の規模は不明だが、東西(360)cm×南北342cmを測り、隅丸長方形を呈するものと推測される。保護層の確保が可能であったため、詳細については不明である。

② 土坑

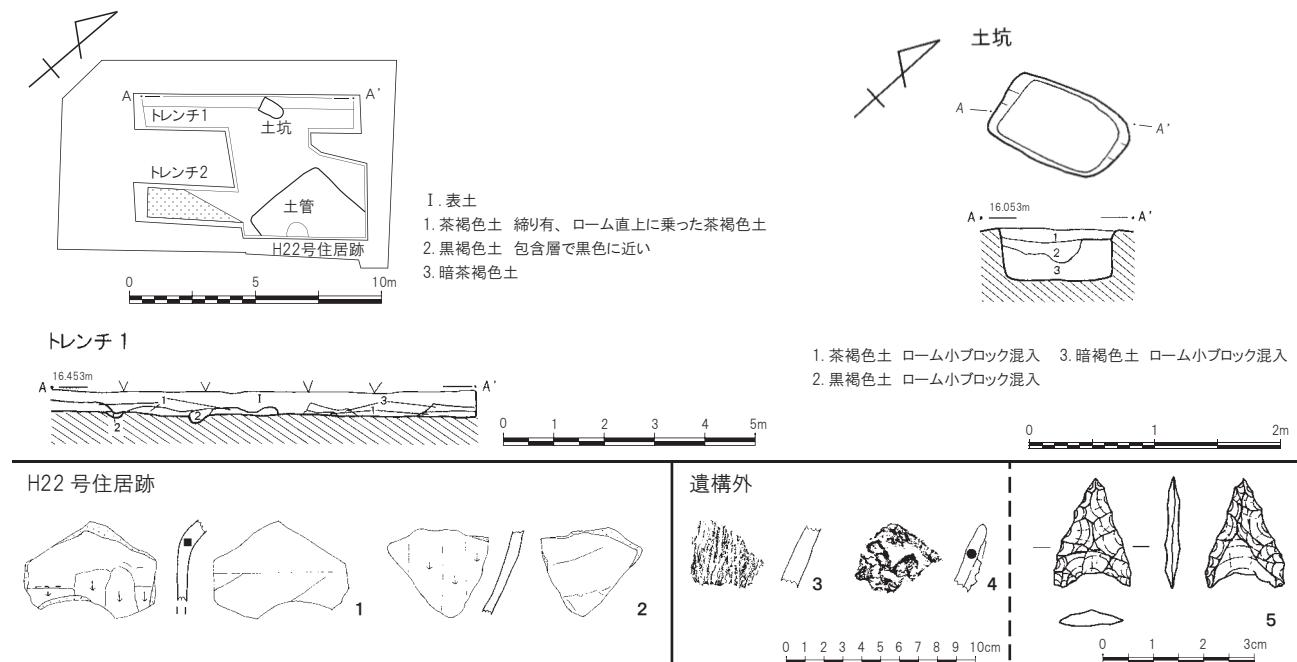
土坑は調査区北西部で検出した。平面形態は隅丸長方形を呈し、確認面径105×65cm、底径85×56cm、深さ40cmを測る。出土遺物がないため遺構の時期は不明であるが、覆土の特徴や形状から比較的新しい時期のものであると考えられよう。

③ 出土遺物

遺物はH22号住居跡の覆土中及び遺構外から出土した。詳細については第20図及び第19表に掲載した。

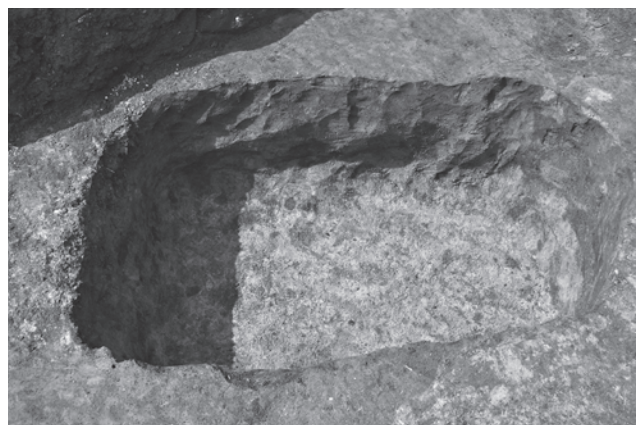
第19表 権現山遺跡第29地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第20図-1	H22号住居跡	土師器甕	頸部片、口縁部ヨコナデ、胴部縦位のヘラケズリ	8世紀
第20図-2		土師器甕	胴部片、縦位のヘラケズリ	8世紀
第20図-3	遺構外	縄文式土器	胴部片、外面貝殻条痕文、胎土に繊維を含む	縄文早期末
第20図-4		縄文式土器	口縁部片、隆帯に押圧文、沿ってキャタピラ文	縄文前期末カ
第20図-5		石鏃	長さ2.2/幅1.5/厚さ0.25/重さ0.79	縄文カ





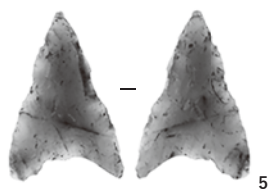
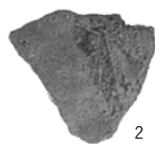
権現山遺跡第 29 地点 H22 号住居跡プラン確認



権現山遺跡第 29 地点土坑

H22 号住居跡

遺構外



権現山遺跡第 29 地点出土遺物